

小 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目次

I	研究主題設定の理由	1
1	小学校図画工作科における成果と課題及び児童の実態	1
2	共通テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」 との関連	2
3	研究主題について	2
II	研究仮説	3
1	研究仮説	3
2	研究仮説について	3
3	目指す児童像	4
III	研究方法	4
1	基礎研究	4
2	実践研究	5
IV	研究の視点	5
V	研究の内容	6
1	研究構想図	6
2	検証授業	7
VI	研究の成果と課題	23
1	研究の成果	23
2	課題	24

研究主題

図画工作が「できる」児童の育成 ～自己決定できる多様な状況の設定を通して～

I 研究主題設定の理由

1 小学校図画工作科における成果と課題及び児童の実態

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日)(以下、「答申」と言う。)では、図画工作科等の現行の学習指導要領の課題の一つとして、「感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成すること」が挙げられている。

実際の図画工作科の授業の中では、児童が楽しんで活動に取り組んでいる姿を見ることが多く、「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別報告書(図画工作)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月)の第 6 学年 児童質問紙調査の結果においても、「図画工作の学習が好きだ」という質問に対して、「そう思う」55.8%、「どちらかといえばそう思う」24.5%と肯定的に回答した児童は 80.3%を占めている。一方で、実際の授業の中では、「主題が決められない」、「次にやることが決められない」等の児童の姿が見られることがある。「図画工作の授業がどの程度できますか」という質問に対しては、「よくできる」、「だいたいできる」という肯定的な回答は 74.5%と高い割合ではあるが、そのうち「よくできる」と回答した児童は 32.9%にとどまっており、否定的な回答(「できることとできないことが半部くらいずつある」、「できないことが多い」)をした児童は 23.3%を占めている。

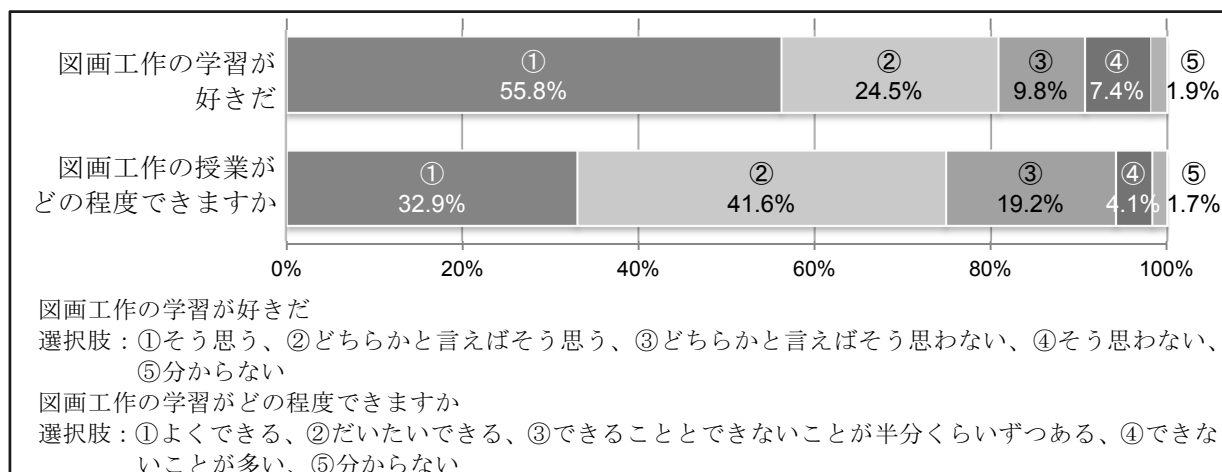


図1 「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別報告書(図画工作)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月)第 6 学年 児童質問紙調査の結果

さらに、本調査の他教科(国語・社会・算数・理科・音楽・家庭)における同様の質問についての回答結果と比較した。どの教科においても学習が「好きだ」と思っている児童と授業が「よく分かる」と感じている児童の割合に差はある。しかし、他教科における「好きだ」と「よく分かる」あるいは「よくできる」という肯定的回答の差は 10 ポイント以内であるのに対し、図画工作では、図画工作が「好きだ」思っている児童と図画工作の授業が「よくで

きる」と感じている児童の割合が20ポイント以上異なり、差が大きい傾向にあると言える。

これらの調査結果と児童の実態から、図画工作が「できる」と感じている児童は、図画工作が「好き」と思っている児童に比べて多くはないことが分かる。そこで、図画工作が「好き」と思うだけにとどまらず、図画工作が「できる」という実感がもてる児童を育成することが課題であると考え、以下の二点に着目した。

- ・ 図画工作科が「できる」という姿は、児童一人一人が目標に沿って設定するものであり、一つの共通した「できる」という姿として現れるものではないこと。
- ・ 児童が図画工作が「できる」と感じる過程において、児童は「感性や想像力等を豊かに働かせ」ている状態であるかどうかを教員が把握することが困難であること。

そして、本研究における図画工作が「できる」とは、「答申」や小学校学習指導要領解説図画工作編(平成29年6月 文部科学省)を踏まえ、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す過程を通して、自己決定を繰り返しながら設定した目標に到達した状態と捉えることとした。

2 共通テーマ『主体的・対話で深い学び』の実現に向けた授業改善』との関連

小学校学習指導要領 第2章 第7節 図画工作(文部科学省 平成29年3月)には、以下の記述がある。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。

このことから、図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」とは、「造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習」であると捉えることができる。また、小学校学習指導要領解説図画工作編(文部科学省 平成29年6月)には、「造形的な見方・考え方」とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと」と記載されている。

図画工作が「できる」という実感がもてる児童を育成するということは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す」過程を通して、設定した自分の目標に到達したことを実感できる児童を育成することであると言える。そして、その過程そのものが「主体的・対話的で深い学び」の過程となるように授業を改善することを本研究で取り組んでいくこととした。

3 研究主題について

小学校 図画工作科における成果と課題及び児童の実態等から、図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」を通して、図画工作が「できる」という実感がもてる児童を育成するためには、図画工作が「できる」という状態について児童と教員が具体的なイメージを共有することが必要であると考えた。

教員にとっての児童が図画工作が「できる」というイメージは、題材の目標であり、児童に育成すべき資質・能力に基づいている。どのような資質・能力を育成したいのかを明確にし、資質・能力を身に付けた児童の姿を具体的に想定することが重要である。それを基に、題材の学習過程において、児童が「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出す」姿をイメージし、授業中に見られる児童の姿を的確に捉え、価値付けていくことが必要である。

一方で、図画工作が「できる」というイメージを児童がもつためには、児童が題材の目標に沿って自分の目標を見いだすことが不可欠である。まず、題材の目標や材料・用具等についての理解を基に自分の目標を設定する。そして、その自分の目標と造形的な創造活動への取組との間を感性等を働かせながら往還し、主題を決定したり、表したいことを更に見付けて次に行うことを決定したりしていく。したがって、児童が「できる」というイメージをもつためには、題材の目標や材料・用具等についての理解、自分の目標と自己の取組についての認識、感性等を働かせて自己の取組を決定していくことが必要である。

つまり、教員が想定する図画工作が「できる」という状態と児童が図画工作が「できる」という実感をもっている状態が題材の目標を基盤として共有されているときに、図画工作が「できる」児童が育成できると考えた。

以上のことを踏まえ、研究主題を「図画工作が「できる」児童の育成」と設定した。そして、図画工作が「できる」という実感がもてる児童は、図画工作の学習の過程において育成されるものであり、児童はその過程で自己決定を繰り返していく。そこで、題材の学習過程において、どのような自己決定をどのような状況で行うことが、図画工作が「できる」と実感することにつながっていくのかについて研究を進めることとし、副主題を「自己決定できる多様な状況の設定を通して」と設定した。

II 研究仮説

1 研究仮説

児童が題材の目標を理解して学習過程で多様な自己決定ができる題材を教員が設定し、その学習過程での児童の取組を児童自身が認識したり、教員が的確に価値付けたりしていくことで、図画工作が「できる」児童を育成することができるだろう。

2 研究仮説について

図画工作が「できる」と児童が実感し、教員が認識するためには、

- ・ 児童が題材の学習過程において多様な自己決定をできること
- ・ 児童自身が自己の取組について認識できること
- ・ 教員が児童の取組を的確に価値付けられること

が必要であると考えた。

(1) 児童が題材の学習過程において多様な自己決定をできること

児童が題材の目標に沿った適当な自己決定をするためには、児童がその題材や材料等について理解した上で、自分で設定した目標が基盤となる。自分で設定した目標を基に考えたり、自身の取組について振り返ったりすることで、主題を決めたり、新たな取組の方向を決めた

りするという造形的な創造活動についての自己決定が生まれてくる。その際には、図画工作のみならず様々な学習での既習内容や日常生活での経験等を基にすることが考えられる。つまり、教員は児童にどのような既習内容や生活経験等があり、その題材においてどのように生かすことができるのかを想定して題材を設定することが重要である。

(2) 児童自身が自己の取組について認識できること

児童が造形的な創造活動の中で自己決定を積み重ねたことを、自分の目標と照らし合わせて振り返ったり、自身の活動への取組状況から自分の目標を修正したりする機会を確保することが必要である。児童が自己決定したことと、その結果としての活動への取組状況や自分の目標の修正等を関連付けて捉えることができるようになれば、その経験を新たな題材への取組の手掛かりにすることができる。その手掛かりを基に自身の力で題材に向かえるようにすることが、児童が図画工作が「できる」ということを実感することにつながると考えられる。

(3) 教員が児童の取組を的確に価値付けられること

教員は、授業中の児童の造形的な創造活動の様子を捉えて評価を行っており、その教員の働き掛けの内容やタイミングが適切であれば、児童が図画工作が「できる」という自信をもてるようになる。適切な指導を行うためには、児童が設定した自分の目標を踏まえて児童の活動の様子を捉え、その過程に児童がどのような感性や資質・能力等を働かせて自己決定したのかを的確に把握していくことが大切である。

3 目指す児童像

本研究で育成したい児童像である、図画工作が「できる」児童を以下のように設定した。

- ・ 題材の目標に沿って、自分の目標を設定している児童
- ・ 自分の目標を基に、主題や表し方等を決めて表現している児童
- ・ 自分の表現についての理由や見通しをもっている児童

III 研究方法

1 基礎研究

主に、以下についての文献研究を行い、図画工作が「できる」児童を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について考察する。

- ・ 小学校学習指導要領（文部科学省 平成 20 年 3 月）
- ・ 小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省 平成 20 年 6 月）
- ・ 小学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年 3 月）
- ・ 小学校学習指導要領解説 図画工作編（文部科学省 平成 29 年 6 月）
- ・ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）
- ・ 「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）調査結果（小学校・中学校）」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 23 年 3 月）
- ・ 「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別報告書（図画工作）」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月）

2 実践研究

研究仮説に基づいた題材の指導計画を構想し、以下の4回の検証授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現と図画工作が「できる」児童の姿について検証する。

(1)	第3学年 「びっくり！絵の具ショップ」 A表現(2)
(2)	第5学年 「見立てをつかって、あらわそう～環境ポスター～」 A表現(2) B鑑賞(1)
(3)	第5学年 「ひびきあわせてわたしの世界」 A表現(2)
(4)	第5学年 「すばらしき世界」 A表現(2)

IV 研究の視点

研究仮説及び基礎研究を踏まえ、以下の三点を研究の視点として設定し、授業改善を図ることとした。

<i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程

児童が題材に沿った自分の目標を設定できる題材であれば、自己決定ができる多様な状況が生まれる学習過程が実現できると考えた。

児童が自分の目標を設定するには、児童は題材の目標を理解しなければならない。そして、既習内容や生活経験等を踏まえて、新たな題材について見通しをもち、自分の目標を設定する。したがって、題材の目標が明確であり、児童も理解できるものであること、さらに、その内容や提示の仕方が児童にとって見通しがもちやすいものであることが重要である。なお、題材についての見通しには、学習過程や自分の思いや考えを表現することへの見通し、表現の方法や材料、用具についての見通しが考えられる。

そのためには、教員は児童が学習過程のどの場面でどのような自己決定を行うのかを想定して題材を設定し、展開を構想した上で、題材の目標を児童に分かりやすく提示する。

<ii> 自己の取組を認識するための「対話」

児童が自己の取組を認識する手掛かりとして、学習過程に「対話」を位置付けた。この「対話」の対象は、感性を育む児童を取り巻く環境であり、それを ①人(自分、友達、教員、保護者、地域の方等) ②もの(材料、用具等) ③こと(学習の場、時間、情報等)の三つに分類し、それらとの関わりを「対話」と表現することにした。通常、授業において児童の「対話」は自然に行われていることが多い。検証授業では、形や色などの造形的な視点で捉えたことや自分のイメージ及び自分にとっての意味や価値等について、全ての児童が目的をもって「対話」を行う機会を意図的に設定することとした。

<iii> 視点を明確にした振り返り

児童が感じることや表したいことは学習過程とともに変化していくことが多い。その変化を児童自身が捉え、自分の目標を見直して、自己決定していくという試行錯誤の経過を記録として積み重ねることを題材の学習過程に位置付けた。ここでの振り返りは、楽しかった、面白かった等の漠然とした振り返りではなく、題材や展開に応じ

た視点を設定する。視点を明確にした振り返りを行うことで、児童は創造的な造形活動における自身の変容や成長に気付くことができるとともに、教員は児童の授業中の様子だけでは捉えきれない児童の思考を把握することができる。そして、それを基に児童の創造的な造形活動を的確に価値付ける等の指導を行う。

V 研究の内容

1 研究構想図

課題：図画工作が「好き」と思うだけにとどまらず、
図画工作が「できる」という実感がもてる児童を育成する

研究主題： 図画工作が「できる」児童の育成
～自己決定できる多様な状況の設定を通して～

研究仮説：児童が題材の目標を理解して学習過程で多様な自己決定ができる題材を教員が設定し、その学習過程での児童の取組を児童自身が認識したり、教員が的確に価値付けたりしていくことで、図画工作が「できる」児童を育成することができるだろう。

授業改善を図るための研究の視点：

< i > 自己決定ができる
多様な状況を生み出す学習過程

< ii > 自己の取組を認識
するための「対話」

< iii > 視点を明確にした
振り返り

目指す児童像： 題材の目標に沿って、自分の目標を設定している児童
自分の目標を基に、主題や表し方等を決めて表現している児童
自分の表現についての理由や見通しをもっている児童

2 検証授業

検証授業(1)の概要

第3学年	題材名 びっくり！絵の具ショップ A表現(2)	全6時間	
目標	不透明水彩粉末泥絵の具（以下、粉末状絵の具）に様々な液体や物質感のあるものを混ぜて絵の具をつくり、その色や粘度、マチエールの特性や面白さを捉えて生かしながら、思い付いたことを工夫して表す。		
評価規準			
ア 造形への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
①絵の具をつくることを楽しもうとしている。 ②自分や友達の絵の具のよさや面白さに関心をもっている。	・できた絵の具から、表したいことを思い付いている。	・表したいこと、思い付いたことに合わせて、混ぜるものや描画材を選び、工夫して表している。	・自分や友達の絵の具や作品のよさ、面白さ、表現の工夫などを捉えている。
本題材で目指す 具体的な児童像	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で材料を選んで絵の具をつくる体験を通して、その過程の面白さや変化していく絵の具の様子や絵の具の感触と出会い、絵の具との関わりを感じて、自らすすんで新たな発見や挑戦をしていく児童 ・自らすすんで材料と関わり、材料の組み合わせ方、混ぜ方を工夫している児童 ・絵の具のよさや面白さを友達に伝えている児童 		
研究の視点			
<p><i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程</p> <p>ア 材料の選択</p> <p>自分のイメージに合う絵の具がつかれるように、粉末状絵の具・液体・物質感のあるものを自由に選択できるようにする。</p> <p>イ 絵の具ショップ</p> <p>自分の描きたいものに合わせて、友達のつくった絵の具をシールを使って購入できるようにする。</p>	<p><ii> 自己の取組を認識するための「対話」</p> <p>ア 人との「対話」</p> <p>自分のつくった絵の具を販売することによって、絵の具のよさや面白さを伝え合う。</p> <p>イ ものとの「対話」</p> <p>色や粘度、マチエールの特性や面白さを捉えながら絵の具を作成したり、選択したりする。</p> <p>ウ こととの「対話」</p> <p>つくった絵の具や集めた絵の具を使ってその特性や面白さを生かして絵を描く。</p>	<p><iii> 視点を明確にした振り返り</p> <p>ア 相互評価</p> <p>絵の具を購入した理由を互いに伝え合い、ワークシートに集約する。</p> <p>イ 個の振り返り</p> <p>自分のつくった絵の具のよさや面白さをワークシートにまとめる。</p> <p>ウ 図工ノート</p> <p>毎回、簡単な振り返りを図工ノートに記入し、目標の設定や振り返りの視点の手掛かりとなるようにする。</p>	

(1) 題材について

ア 題材観

本題材は、粉末状の絵の具に様々な液体（でんぷんのり、液体のりなど）や物質感のあるもの（おがくず、砂など）を混ぜて絵の具をつくり、それを交換（販売）し合い、その絵の具を基に思い付いたことを表す活動で、小学校学習指導要領 第2章 第7節 図画工作 第2 [第3学年及び第4学年] 2内容 A表現(2)に基づき設定した。

絵の具は色彩の面白さやよさだけでなく、粘度やマチエールの違いによって見え方やイメージが変化する特性がある。本題材では、その絵の具のよさや面白さを感じ、そこから思い付いたことを表す。体験やイメージを結び付ける手だてとして、自分で考え、様々な材料を混ぜて絵の具をつかって直接的に絵の具と関わる過程を大事にする。

そのため、児童が自由に材料や用具を選ぶことができる場を設定する。材料や用具置き場を充実させ、児童が表したいことに合わせて材料や用具を自由に選ぶことにより、児童の活動が多様化されていくと考える。


また、「絵の具ショップ」を開き、自分たちがつくった絵の具を交換する場を設ける。このことにより、絵の具の特性や面白さに焦点化した児童同士の対話が活発になる。さらに、売ることや絵をかくことを児童は想像し、目的をもって絵の具をつくることができる。


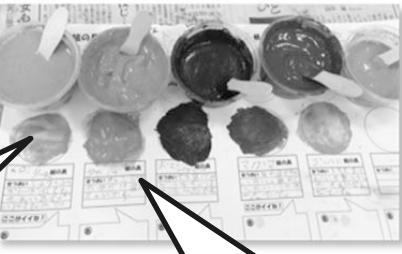
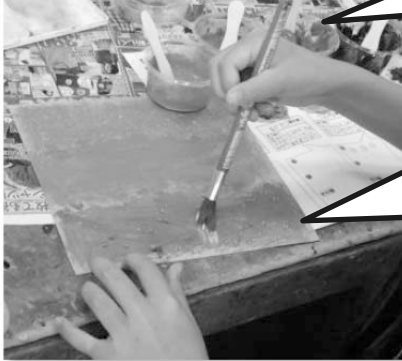
イ 材料・用具


《授業者》不透明水彩粉末泥絵の具、液体のり、でんぷんのり、酢酸ビニル樹脂系エマルジョン型接着剤、ポリビニルアルコール（PVAのり）、液体粘土、乾燥陶土、おがくず、土、砂、胡粉、炭酸カルシウム、細かく切ったスタッフ、寒水石、ざる、歯ブラシ、スポンジ、細工べら、割り箸、筆、ペインティングナイフ、歯ブラシ、プラスチック製のカップ、プラスチックスプーン、皿、画板、様々な大きさの白ボール紙、タブレットPC端末、スクリーン、プロジェクター、図工ノート、雑巾、ワークシート、メッセージを記入する付箋

《児童》鉛筆、消しゴム、水彩絵の具、パレット、筆、新聞紙

(2) 題材の学習の流れ

	学習内容・学習活動 [評価規準] (評価方法)	▶ 児童の姿	研究の視点との関連
第1時・第2時	目標：粉末状絵の具に様々な液体や物質感のあるものを混ぜて絵の具をつくる。		
	1 色彩や、粘度、マチエールからどのようなことができるのか、どのようなことを試したいのかを考えて「びっくり！絵の具」をつくる。 [ア-①] (活動観察)	▶様々な材料の特徴を捉える。 	研究の視点<ii>-イ 研究の視点<i>-ア

	<p>2 ワークシートをまとめて、絵具ショップを開く準備をする。</p>	<p>▶自分だけの「びっくり！絵の具」をつくる。 ▶自分の絵の具の特徴を捉える。</p>  <p>* 絵の具の説明と、乾いたときの様子が伝わるようにワークシートにまとめる。</p>	<p>研究の視点<iii>-イ</p> <p>どんな名前を付けたら、この絵の具のよさが伝わるかな。</p>
<p>第3時 〜 第5時</p>	<p>目標：①自分や友達のつくった絵の具のよさや面白さを感じ取る。 ②絵の具の色や粘度、マチュールの特性や面白さを捉え、思い付いたことを表す。</p> <p>3 絵具ショップを開く。 4 自分の使用したい絵の具を友達から購入する。 [ア-②](活動観察)</p> <p>この絵の具があれば、あんな絵が描けそうだ。</p> <p>5 購入した絵の具と自分のつくった絵の具で表したいことを絵に表す。 [イ](作品・活動観察) [ウ](作品・活動観察)</p>	<p>▶絵具ショップを開いて、相互鑑賞をする。</p>  <p>ぷるぷるしていて面白い絵の具だな。</p> <p>▶絵の具のよさや面白さを生かして描く。</p> 	<p>研究の視点<i>-イ</p> <p>研究の視点<ii>-ア</p> <p>研究の視点<ii>-ウ</p> <p>研究の視点<iii>-ア</p> <p>研究の視点<iii>-ウ</p> <p>このふわふわしている感じで雲を描こう。</p> <p>背景に虹を描きたいから、また絵の具ショップに絵の具を買いに行こう。</p>

第6時	目標：自分たちの作品のよさや面白さを感じ取る。		
	<p>6 友達や自分の活動を振り返って、友達や自分の活動のよさや面白さを感じる。</p> <p>7 感じたことをワークシートにまとめたり、発表したりする。</p> <p>[エ](活動観察・ワークシート)</p>	<p>▶見たり触ったりして感じる。</p> 	<p>研究の視点<iii>-ウ</p>

透明っぽい白い絵具で描いたら、くらげが水の中にふわふわとゆれている感じになった。

(3) 視点を明確にした振り返りの記述

第3時の振り返り…目標の設定の手掛かりとなる振り返り

- ・ 「夜空絵の具」、「木の絵の具」、「海の絵の具」、「水の絵の具」をつくりました。一番人気は、「水絵の具」でした。今度、このつくった絵の具を使って夜空と海を描こうと思います。

第6時の振り返り…表現の工夫に着目した振り返り

- ・ 楽しかったことは、手づくりをして、販売して、絵をかいたことです。なぜかという、自分のつくった商品を販売して、その絵の具で絵もかけたからです。一番気に入っている絵の具は、みどり色のつぶつぶが入っている絵の具と、夕日の絵の具です。この二つの絵の具を使って草原と夕日を描いたら、本物みたいになりました。

(4) 成果と課題

成果	<p>研究の視点<i></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の混ぜ方、友達がつくった絵の具の購入の仕方、描き方など、自ら考え自己決定する場面がみられた。 ○ 絵の具をつくる際に、絵の具が混ざって変化していく様子や、絵の具自体の感触、マチュールなどを感じながら活動することができた。 <p>研究の視点<ii></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お店を開くことにより、対話が活発になり、互いの絵の具のよさを感じ取ることができた。
課題	<p>研究の視点<i></p> <ul style="list-style-type: none"> ● お店を開き、互いに購入する際に、「最終的には購入した絵の具で絵を描く」ということを強く児童に伝える必要があった。 <p>研究の視点<ii></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 絵の具の色や質感が好きだからという理由で絵の具を購入したため、絵の具の質感を生かして描く活動につながらない児童がいた。絵の具のよさや面白さに焦点化できる言葉掛け等が必要であった。 <p>研究の視点<iii></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標に沿った振り返りができるように、目標を十分に理解させる必要があった。

検証授業(2)の概要

第5学年	題材名 見立てをつかって、あらわそう～環境ポスター～ A表現(2) B鑑賞(1)	全8時間	
目標	環境問題について自分の伝えたいことや分かり合いたいことを、見立てや擬人化の表現を楽しみながら、グラフィックソフトウェアを使ってポスターにする。		
評価規準			
ア 造形への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・自分が大切に思う ことを見付け、分 かりやすく伝わ るように、ポスタ ーづくりに取り 組んでいる。	・伝えたいことや分か り合いたいことを 見立てや擬人化の イメージを膨らま せながら考えてい る。	・グラフィックソフト ウェアの機能を活 用し、自分の伝え たいことや分かり合 いたいことを表し ている。	・自分や友達の作品の よさに関心をもち、 見立てるなどの表 現の意図や工夫を 味わっている。
本題材で目指す 具体的な児童像	環境問題についての自分の意見や考えを、グラフィックソフトウェアを用いたポスターづくりを通して、見立てや擬人化を使って工夫して表している児童		
研究の視点			
<p><i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程 ア 学習活動の掲示 プレゼンテーションソフトを用いて学習内容を提示することで、児童が学習目標を効率的に理解し、学習への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>イ 構想段階でのグループ活動 主題や表し方を決める構想段階で、グループ活動を取り入れ、自他の考えを伝え合い、表現の仕方についての見通しを広げ深めていく。</p>	<p><ii> 自己の取組を認識するための「対話」 ア 人との「対話」 鑑賞を通して、見立てや擬人化についての気づきを友達と話し合い、様々な捉え方を知る。</p> <p>イ ものとの「対話」 グラフィックソフトウェアの機能を活用して、絵の重なりや組み合わせを試したりやり直したりする。</p> <p>ウ こととの「対話」 図画工作科の既習事項だけでなく、児童の生活体験や他教科での既習の学習(国語、社会)も関連付け、表現に生かしていく。</p>	<p><iii> 視点を明確にした振り返り ア 伝え合い 友達の作品について気付いたことを伝え、話し合うことにより、作品表現に込められた意図や工夫に気付くとともに、そのときの視点を生かして自分の作品のもつよさについて認識できるようにする。</p> <p>イ 個の振り返り 表現の過程において短時間でできる振り返りを多く設定し、現在の取組を自分の目標と照らし合わせることができるようになる。</p>	

(1) 題材について

ア 題材観

- 鑑賞から体験～見立てや擬人化などの表し方

児童は、高学年になると、具体的なものの捉え方だけでなく、抽象的なものの捉え方もできるようになってくる。しかし、写実的な表現への意欲が高まりながらも、思いに技術が追いつかず自信を無くしてしまう児童も少なくない。そのような発達段階にある児童が、見立てや擬人化などの表現を体験することで、絵を描くことの喜びには、写実的に描くことだけに限らず、想像することの楽しみもあることを理解することができる考えた。また、見立てや擬人化を含んだ表現に気付いたり、表現をつくりだすことができたりするときに、新鮮な驚きを伴いながら絵の捉え方が変わることで、「できた」という実感を児童にもたせていきたい。

- グラフィックソフトウェアを使って～重なり、組み合わせ～

グラフィックソフトウェアの機能を使うことで、形と形、色と色、形と色、文字と色等の重なりや組み合わせを考えることが欠かせなくなる。ポスターを重層的に構成していく面白さを味わいながら、児童が何度も組み合わせを試しながら、自分らしく主題を決定し、主題への理解を深めていくことを図る。

イ 材料・用具


《授業者》 ワークシート、参考になる資料や写真、コンピュータ、グラフィックソフトウェア



《児童》 サインペン、はさみ、のり等

《場の設定》 環境問題に関わる参考資料や写真が見やすいように配置する

(2) 題材の学習の流れ

	学習内容・学習活動 [評価規準][評価方法]	▶ 児童の姿	研究の視点との関連
第1時	目標：鑑賞したり、体験したりしながら、見立てや擬人化などを味わう。		
	1 国語(光村図書)で既習の「見立て」について、振り返る。	▶見立てや擬人化などの表現を楽しみながら味わう。 見立てや擬人化の例として、「鳥獣人物戯画」を提示する。	研究の視点<i>i</i>-ア 研究の視点<i>ii</i>-ウ
	2 見立てや擬人化をつかった表現、作品例を鑑賞する。 [ア](発言、行動観察)		1学期に国語で勉強したな。 この絵、見たことがある。
3 気付いたことを、対話を通して広げ深めていく。 [エ](発言、行動観察)	▶見立てや擬人化などに気づき、言葉で自分の感じたこと、考えたことを表す。	研究の視点<i>ii</i>-ア	

	<p>* プレゼンテーションソフトを活用して、児童の気付きを吹き出しを用いて、モニターに映し出していく。</p>		<p>研究の視点<i>i</i>-ア</p> <p>一人一人が見付けた、絵の中の気付きをつなげる。</p>
<p>第2時・第3時</p>	<p>目標：見立てや擬人化を生かしたポスターを考える。</p> <p>3 「環境」をテーマに、見立てや擬人化などを使いながら、グループで考え、連想する。</p>	<p>▶見立てや擬人化などを理解し、言葉や絵のもつ多義性を友達と一緒に話したり書いたりして楽しむ。</p> <p>「ごみ」と「体重」がつながった。</p> <p>「減らす」のは、「体重」。</p> <p>減らす—体重—量る—体重計—はかり— <small>「ごみ問題」</small> 身体測定 <small>「リサイクル—プラスチック」</small> <small>「身長—伸びる」</small> <small>「飲み物—ペットボトル」</small> <small>「大きくなる—成長」</small> <small>「液体」</small> <small>「宇宙—広い」</small> <small>「海—地球」</small> <small>「外国—ロシア」</small></p> <p>全部つながった。</p>	<p>研究の視点<i>i</i>-イ</p> <p>研究の視点<i>iii</i>-イ</p>
<p>第4時～第8時</p>	<p>目標：グラフィックソフトウェアの機能を使って試しながら、自分の伝えたいことを表したポスターをつくる。</p> <p>5 グラフィックソフトウェアの機能を使って絵を描く。</p> <p>6 絵に文字を組み合わせる。 [エ](作品)</p>	<p>▶グラフィックソフトウェアの機能を理解し、見通しをもって取り組む。</p> <p>レイヤーを使って、地球に表情を付けてみよう。</p> <p>レイヤーを使って、体重計の上に地球を重ねてみよう。</p>	<p>研究の視点<i>ii</i>-イ</p>

	<p>7 モニターに作品を投影しながら、活動を振り返り、話し合う。 [エ](発言、行動観察)</p>	<p>▶作品に表された表現の意図や工夫を互いに読み合い、語り合うことを楽しむ。</p>	<p>研究の視点<iii>-ア</p>
	<p>環境問題から、地球温暖化、サンゴの白化につながって、海、魚、苦しい魚たちが表わされているんだね。</p>	<p>地球の緑は大切、貴重だから宝石、宝石の入った宝箱の中は輝いている。だから、箱の中に輝く緑色の宝石と地球を描いている。</p>	
	<p>文字の色や大きさにも工夫があるね。</p>		

(3) 成果と課題

<p>成果</p>	<p>研究の視点<i></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人の作品制作の前に鑑賞、グループでの連想、スケッチ試作を取り入れたことで、児童が見通しをもつことができ、安心して活動に取り組み始めることができた。 <p>研究の視点<ii></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図画工作だけのつながりだけでなく、他教科との関連をもたせたことで、児童の中に課題意識を自ずともたせることができた。 <p>研究の視点<iii></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見立てや擬人化の表現ができたときに児童が新鮮な驚きをもてる内容を選んだことで、表現と鑑賞の学習の内容ができたかどうかを児童自身で認識することができた。また、教員にとっても、児童ができたかどうかを把握しやすくすることができた。 </p></p></p>
<p>課題</p>	<p>研究の視点<i></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提示した参考例が具体的になりすぎたことで、児童の表現に偏りがみられた。目標や発問をより具体的に理解させ、参考例からではなく、児童の発想を誘発することができる写真等を使用することが手だてとして考えられる。 <p>研究の視点<ii></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他教科での既習内容をより知っておくことで、更に多様な見方や深まりのある表現にすることができる。 </p></p>

検証授業(3)の概要

第5学年	題材名 ひびきあわせて わたしの世界 A表現(2)	全5時間	
目標	でんぷんのりに染料を混ぜた材料の特徴を捉え、変化する形や色を楽しみながら自分の表したいことを見付け、材料や用具の特徴を生かして工夫して表す。		
評価規準			
ア 造形への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・自分の表したいことを、でんぷんのりで表す活動を楽しもうとしている。	・でんぷんのりの感触、形、色の変化などを基に、感じたことや想像したことから自分の表したいことを見付けている。	・でんぷんのりの特徴を生かし、様々に試しながら、自分の思いに合わせて用具の使い方や表し方を工夫している。	・自分や友達の作品や活動などから、よさや面白さを感じ取っている。
本題材で目指す 具体的な児童像	でんぷんのりに染料を混ぜ、変化する形や色を楽しみながら自分の表したいことを見付け、材料や用具の特徴を生かして工夫して表そうとする児童		
研究の視点			
<p><i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程</p> <p>ア 材料や主題についての話し合い 導入部で材料と主題に関して全体で話し合うようにし、学習過程の見通しを明示する。</p> <p>イ 主題を決定する過程 身体を使って材料についての体験を十分にすることで、自己の主題につなげられるようにする。</p>	<p><ii> 自己の取組を認識するための「対話」</p> <p>ア 人との「対話」 友達と活動の過程を記録した写真や作品を見合い、互いに感じたことを話し合う。</p> <p>イ ものとの「対話」 でんぷんのりと染料を混ぜてぶるぶる粘土をついたり、洗濯糊や木工用接着剤など既習の材料を重ねたりする中で、材料の特徴を捉える。また、作品を触り、形や色、表し方による感じの違いなどを感じ取る。</p> <p>ウ こととの「対話」 主題について、導入部で具体的な事物や今までの経験など、想像したことを話し合う。</p>	<p><iii> 視点を明確にした振り返り</p> <p>ア 過程の記録 変化する画面の中で、気に入った場面を写真で記録し、自分の活動を振り返り、達成感を得られるようにする。</p> <p>イ 主題につなげる振り返り ワークシートに毎回の活動で感じたことを記録し、主題につなげるようにする。</p> <p>ウ 活動と振り返りの関連付け 児童の言葉での振り返りと記録した写真を踏まえて、児童の活動と振り返りを関連付けて捉える。</p>	

(1) 題材について

ア 題材観

本題材は、でんぷんのりの感触や、変化する形や色を楽しみ、感じたことや想像したことを基に自分の表したいことを見付け、諸感覚を働かせて様々な表し方を試みながら思いに合う自分の方法を考えて表す活動である。




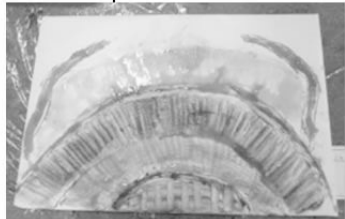
でんぷんのりの感触に親しみながら、材料を重ねて自分のイメージを重ねていけるように、透過性のあるでんぷんのりを使用する。半透明のでんぷんのりに染料で色を付け、粘土のように形をつくることを活動の導入とし、でんぷんのりの可塑性を生かし、形を変化させて思い付いたことを何度も試せるようにした。児童はでんぷんのりの冷たい感触や、ゼリーのように重ねてできる層を新たな発見として見付けることができる。また、乾燥した画面を触ることで、前時の自分の活動を身体で捉え、それに合った形や色を重ねていけるようにした。思考して進むイメージだけでなく、実際に触って感じたり、身体を動かしたりして、実感を伴う活動を主題に結び付けていくことを目指す。「練る、ぬる、のぼす、重ねる、削る、ひっかく」などの行為が生まれてくることを想定し、その行為に合った道具での表し方を工夫して、自分なりの方法を見付けていくようにする。




イ 材料・用具

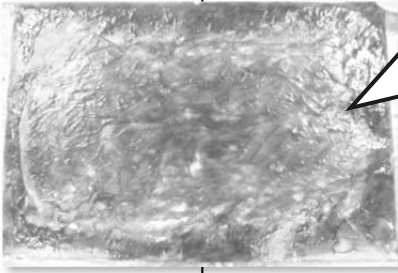
《授業者》ポリプロピレンを主原料とするフィルム法合成紙（以下、ユポ紙と表す）、画板、でんぷんのり、洗濯糊、木工用接着剤、靑染料、スポイト、粘土べら、割り箸、スプーン、フォーク、カップ、トレー

《児童》雑巾、絵の具セット

(2) 題材の学習の流れ

	学習内容・学習活動 [評価規準] (評価方法)	▶ 児童の姿	研究の視点との関連
第1時	目標：でんぷんのりと染料を混ぜたぷるぷる粘土の特徴を捉え、表したいことを思い付く。		
第2時	1 でんぷんのりと染料を混ぜてぷるぷる粘土をつくり、その変化を感じ取る。 [ア](発言、行動観察)	▶画板に貼ったユポ紙の上で、でんぷんのりと染料を混ぜて、様々に変化させる。 	研究の視点<i>i</i>-ア 研究の視点<i>i</i>-イ
			
		▶変化する画面を写真で記録する。	研究の視点<i>iii</i>-ア

	<p>2 「響き合い」について思い付いたこと、想像したことを話し合う。</p> <p>[イ](発言、行動観察)</p>	<p>▶「響き合い」について想像した言葉やことについて友達と話し合う。</p> <p>共鳴、ハーモニー</p> <p>気持ちが通じるということかな。</p>	<p>研究の視点<ii>-ウ</p>
<p>第3時 〜 第5時</p>	<p>目標：でんぷんのりの特徴を生かして、「響き合い」の世界を工夫して表す。</p> <p>3 思い付いた「響き合い」の世界のイメージを膨らませ、表現する。</p> <p>[ア](つぶやき、行動観察) [イ](つぶやき、行動観察)</p> <p>[ウ](行動観察、作品)</p> <p>重ねるとパンケーキのようだ。</p> <p>4 友達の活動を見て感じたことや思ったことを話し合う。</p> <p>(友達)花の下が透けていて、響き合っている感じがきれい。</p>	<p>▶前時までの写真を見ながら、感じたことや気付いたことを友達と話す。</p> <p>▶作品を触って感じ取ったことを基に、「響き合い」の世界についてのイメージを膨らませる。</p>  <p>▶思い付いたことに合わせて、でんぷんのりや洗濯糊、木工用接着剤等と染料を混ぜてつくったものを重ねる。</p>  <p>▶気に入った画面を写真に撮る。</p> <p>▶活動で感じたことを「響き合い」や「重なり」という視点で振り返る。</p> <p>▶友達の作品のよさを伝え合う。</p>  <p>(本人)夢を響き合わせました。羽と花が共鳴している様子です。</p>	<p>研究の視点<ii>-ア</p> <p>光と闇の世界が見えてきたよ。</p> <p>研究の視点<ii>-イ</p> <p>研究の視点<iii>-イ</p> <p>研究の視点<iii>-イ</p>

<p>5 自分の作品を見て、よさや面白さを感じ取る。 [エ](発言、ワークシート)</p>	<p>▶自分の作品を見直す。</p>	<p>研究の視点<iii>-ウ</p>
		<p>前回つくったなみなみしたところに濃くむらさきを入れて、すごい感じにしました。光と闇の世界が重なり合っている感じが表せました。</p>

(3) 振り返りの手だて

- 自分の目標と取組の過程が見えるワークシートの活用

<p>固くもないし、柔らかくもない。ねばねば感が強い。色を付けてぷるぷる粘土を紙に付けると、薄い色になる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>1回目 ぷるぷる粘土でつくっているときに思い付いたことや感じたことを書こう。</p> <p>2回目 どのようなこと(もの)を響き合わせてみましたか?その物語を書きとめておこう。</p> <p>3回目 自分の考えや気持ち、思い出などと重ねてみよう。</p>	<p>色と色を組み合わせると、暗い夜に空から虹色の羽が降ってきた。</p>
<p>田舎で見た星がとてもきれいだった。 真ん中の噴水みたいなところは、天の川を表している。</p>		<p>反対の色や同じ色を左右対称にすると響いているような気がした。</p>

(4) 成果と課題

<p>成果</p>	<p>研究の視点<ii></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料に関わる時間を十分に確保し、身体を使って試行錯誤することで、材料の特徴を深く捉えることができた。 ○ 友達とつくり出した色のよさや感じたことを写真や作品を見ながら伝え合うことで、「響き合い」についてのイメージが膨らんでいっていることを児童が実感することができた。 <p>研究の視点<iii></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の活動の過程を写真とワークシートで記録することで、教員が関連付けて捉えられるようになり、言葉掛けがしやすくなった。
<p>課題</p>	<p>研究の視点<i></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童が表現の見通しをもてるように、材料の特徴を捉えるための材料についての体験を十分にさせることができるような計画を立てる。 <p>研究の視点<iii></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童が気に入った画面を記録に残していくことと、そのときに感じていたことが合致するように、タブレットPC端末等のICT機器を積極的に活用して、効果的な振り返りができるようにする。

検証授業(4)の概要

第5学年	題材名 すばらしき世界 A表現(2)	全7時間	
目標	色の重なりや組み合わせから、自分の思いついたものや想像したものを表し、互いの意図や特徴を感じて見ることができる。		
評価規準			
ア 造形への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・色の重なり等から思いついたことや考えたことを絵に表し、自分や友達作品、活動を見ることを楽しもうとしている。	・自分が表したい世界のイメージを膨らませ、考えている。	・自分の表したい世界のイメージから色の重なりや混ぜ具合、描き方を工夫している。	・自分や友達作品のよさに関心をもち、表し方の違いや面白さ、意図等に気付いて見ている。
本題材で目指す 具体的な児童像	自分なりの「すばらしき世界」について考えたことやパステルの特徴から、主題や表し方の意図をもって表そうとする児童		
研究の視点			
<p><i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程</p> <p>ア 学習活動の揭示</p> <p>児童一人一人が表現方法を試した作品を掲示する。他の児童が試した様々な表現方法を知り、自分が表現したいことに合っている表現方法を探したり試したりすることができるようにする。</p> <p>イ 自分の活動への見通し</p> <p>前時の活動や感想を書き、次への活動の見通しをもつ。</p>	<p><ii> 自己の取組を認識するための「対話」</p> <p>ア 人との「対話」</p> <p>視点を提示することで、友達や自分の作品を造形的な視点で見合い、よさや意図により深く気付き合うことができるようにする。</p> <p>イ ものとの「対話」</p> <p>パステルの材料についての経験により、材料の様々な表し方を探したり試したりする。</p> <p>ウ こととの「対話」</p> <p>イメージマップを作り、自分にとっての「すばらしき世界」について、既習事項等も振り返りながら、気持ちを形や色のイメージへとつなげていく。</p>	<p><iii> 視点を明確にした振り返り</p> <p>ア 鑑賞での伝え合い</p> <p>気付いたことを伝えることによって、友達のよさに気付くとともに自分のよさについても認識できるようにする。</p> <p>イ 個の振り返り</p> <p>自分の活動に対して毎時間振り返りを行う。また、題材の終了時に作品の意図や工夫について振り返ることで、自分の取組について認識できるようにする。</p>	

(1) 題材について

ア 題材観

この題材では、自分らしい色を楽しみながら自分が思い付いたものや想像したもののイメージを大切にしながら表していく。パステルは、削って粉末状にする、スポンジや手で広げる、ニードルでひっかいてから色を付ける、消しゴムで消す、水と混ぜるなど、いくつかの表現方法があり、比較的自分の考えを表しやすい材料であると考え。また、パステルは本校の第5学年児童にとっては新しい道具であり、新鮮な道具との出会いからも意欲を高くもって取り組むことができると考える。

最初にパステルの様々な表現方法を試しながら、混ぜ色や意図に合った表現方法を見つけていく時間を設定する。さらに、自分が表現したいことのイメージをもつため、自分の考える「すばらしき世界」とはどんな世界なのか、イメージマップを使って考えや思いを浮かび上がらせる。また、第4学年で学習した気持ちを形や色で表す「気持ち図鑑」など、これまでの学習や生活経験を思い出して、感じ（優しい、あたたかい等）と形や色とを結び付けて考える。具象的なものを描くことに自信がない児童であっても、材料についての経験から見付けた表現方法等から表し方を探し、自分の表したいイメージを表すことができると考える。そして、振り返りの視点を明確して、自分や友達のよさを具体的に話すことで、よさを共有しやすくする。毎時間の自分の活動を振り返ることの積み重ねから、自分で「できた」ことを感じ、意欲を高め、表していく態度につなげていきたい。

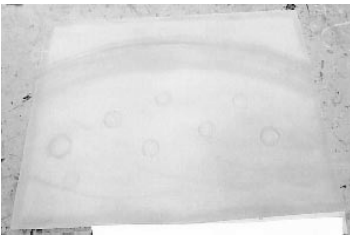
イ 材料・用具

《授業者》木炭紙（消したり、こすったりの繰り返しに耐える紙） パステル 網
 試し用の紙（八つ切りの半分） 消しゴム 練り消し

(2) 題材の学習の流れ

	学習内容・学習活動 [評価規準](評価方法)	▶ 児童の姿	研究の視点との関連
第1時	目標：パステルに親しみ、様々な表し方を試したり楽しんだりする。		
	1 小さな紙でパステルの表し方を試す。 2 パステルの様々な表し方を共有する。 [ア](作品、行動観察)	▶こする、ひっかく、消す、重ねる等の様々な表し方を試してみる。 ▶試したものを黒板にはり、共有する。 自分の試してみたいやり方を実際に試すなど、自分の経験を広げていく。	研究の視点<ii>-イ
第2時	目標：自分の表したいイメージをもつ。		
	3 イメージマップを使って自分の中にある「すばらしき世界」について認識する。	▶自分にとっての「すばらしき世界」について言葉にして書き出す。 ▶イメージマップでの「すばらしき世界」に対しての気持ちや感じ方、自分の心の動きなどを言葉で表す。 例) 幸せ 楽しい 等	

	<p>4 第4学年で学習した「気持ち図鑑」の経験等を基に、自分の感じ方を形や色で表すことを思い出し、特に色についての自分なりのイメージをもつ。</p> <p>[イ](ワークシート、行動観察)</p>	<p>▶どんな色があるか、イメージか言葉で書いて考えてみる。</p> <p>例) 幸せ→黄色 楽しい→ピンク 等</p> <div data-bbox="587 309 1220 996"> </div> <p>4年生のときに、気持ちを色で表したな。</p> <p>動物と一緒にだと楽しいな。</p> <p>動物が好き。</p>	<p>研究の視点<ii>-ウ</p>
<p>第3 〜 6時</p>	<p>目標：色の重なりや組み合わせから、自分の思いついたものや想像したものを表す。</p> <p>5 イメージマップや自分の活動(パステルの色の重なり等)から自分の表したいものを見付け、表す。</p> <p>6 自分が表したいものを表すことができたかを考え、終わりを決める。</p> <p>[イ][ウ](作品・行動観察)</p>	<p>▶人によって様々な感じ方があることを共有する。</p> <div data-bbox="590 1243 1093 1433"> </div> <p>〇〇さんの、雨がアメというのがおもしろい。お菓子の家があったらよいな。</p> <p>* 児童の様々な表し方を掲示する。</p> <div data-bbox="678 1512 981 1825"> </div>	<p>研究の視点<i>-ア</p> <p>〇〇さんの表し方をここで使おう。</p> <p>研究の視点<i>-イ</p> <p>前の時間に、消しゴムで消したところがすごくよかったな。もっとはっきり目立つようにしよう。</p>
<p>第7時</p>	<p>目標：自分や友達作品のよさに関心を持ち、表し方の違いやおもしろさ、意図等に気付いて見る。</p> <p>7 鑑賞する。</p>	<p>▶面白さや違い、感じたことなどを付せんに書き、友達に伝える。</p>	<p>研究の視点<ii>-ア 研究の視点<iii>-ア</p>

	<p>パステルならではの混ぜ色が柔らかい感じになっていてとてもきれいで、幸せな感じがするね。</p> <p>自分の表したかったことが伝わってうれしい。</p> <p>8 振り返りをする。 [エ](発表、付せん、ノート記述)</p>	<div style="text-align: center;">  <p>題名「豊かな世界」 下の色をなめらかで明るい色にして、おだやかな幸せをイメージしました。虹をかすんだような色でかいて、幸せ感を出しました。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>虹の色と少しぼやけた感じが、すごくきれい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>虹やまわりの空、シャボン玉の絵と、色でも表現していて、とてもよいと思いました。</p> </div> </div> <p>▶自分の見つけた友達のよさ等を発表する。</p> <p>▶付せんに書いてもらったり、言ってもらったりして、気付いたことや感じたことを基に、振り返ったことをノートに記入する。</p>	<p>自分では気付かなかったことを教えてもらって、自分が気付いていなかったよさが分かりました。</p> <p>研究の視点<iii>-イ</p>
--	---	---	---

(3) 成果と課題

<p>成果</p>	<p>研究の視点<ii></p> <p>○ 鑑賞の視点（アイデア、色や形の工夫、自分や友達との共通点や違いなど）を明確にして掲示し、その視点に沿って友達の作品を鑑賞した。これにより作品をよく見て、工夫したことや意図について考え、活動や作品のよさを明確に相手に伝えることができた。</p> <p>研究の視点<iii></p> <p>○ 目標に沿った視点をもつことで、振り返りでは、友達からもよさを明確に伝えてもらい、自分の活動を具体的に感じる事ができた。</p>
<p>課題</p>	<p>研究の視点<i></p> <p>● 様々な表し方を試したり、考えたりする中で、児童は目標に沿って活動することができた。しかし、「すばらしき世界」のイメージが膨らんでいくに従って、児童が自分の活動の終了を決定しにくくなり、見通していた活動時間よりも長い時間が必要であった。児童の設定した自分の目標と活動状況をしっかり把握し、柔軟に学習過程を見直しながら授業を進めていく必要がある。</p>

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

研究の成果について、研究の視点に沿って整理して示す。

研究の視点<i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程

児童が自己決定する状況として主に、主題を決める過程、材料及び表現方法の選択、活動の終了が挙げられる。

主題を決める過程においては、題材の目標を児童に分かりやすく提示し、その目標を基にイメージを広げるためにグループで連想したり、学級全体でイメージしたことを出し合ったりしたことが、児童が自分の目標を設定するための手掛かりとして有効であった。

材料及び表現方法の選択においては、材料や様々な表現方法についての体験をするだけでなく、その経験から気付いたことを言葉や画像で記録したり、今まで学習したことや経験したことを視覚的に掲示したりした。そのことにより、材料のよさや面白さに気付くことや材料や表現についての経験を現在の取組に生かそうとしていることを児童自身が認識し、見通しをもって活動に取り組むことができた。

活動の終了については、前時までの振り返りを基に自分の目標を見直す機会を設定したことにより、児童が活動の見通しをもつことができ、活動の終了を児童自身で決めることができるようになってきた。

研究の視点<ii> 自己の取組を認識するための「対話」

人との「対話」、ものとの「対話」、こととの「対話」と整理して捉えることで、対話の目的を明確にして題材の指導計画の中に位置付けることができた。

今回の検証授業では、人との「対話」については、多様な考えや表現方法があることを知ることや他の人の捉え方や感じ方、考え方を知ること、表現の意図やよさを見いだすことを目的とした活動を設定した。

ものとの「対話」については、材料や用具についての経験をやる時間を十分に確保し、材料及び用具の特徴を身体を使って捉えることや、捉えた特徴を生かそうと試したり、よりよい表現を探したりしながら表すことを目的とした活動を設定した。

こととの「対話」については、図画工作だけでなく他教科での既習事項や経験、想像したことと表したいこと、形や色等を関連付けることを目的とした個人やグループ、学級全体での活動を設定した。

このような「対話」を通して、児童が考えていることを言葉で伝え合ったり、書いて記録したりすることで、児童は自分の考えが変化していくことを生かして目標や主題を修正したり、様々な表現を積極的に試したりすることができるようになった。教員にとっては、児童の考えの変容等を行動と言語からの確に捉えることができ、より児童の実態に合わせた指導計画に修正したり、児童が必要に感じるだろう事物を予測して準備したりすることができた。

研究の視点<iii> 視点を明確にした振り返り

振り返りは、児童が自身の活動を認識すること、考えを整理すること、児童の発想や構想の広がりや深まりを促すこと、自身の活動や作品を多面的に捉えること等を目的として行うことで、考えと活動、活動と作品、本時と次時、題材と題材等をつなげることができること

が分かった。振り返りの視点については、自分が活動した事実を振り返る視点や、自分の目標と活動を照らし合わせる視点、感じたことや考えたこと、表現のよさや面白さ等の視点が挙げられる。題材の指導計画の中にどのような目的でどのような振り返りをさせると、何と何をつなげることができるのかを考えて位置付けていくと効果的である。

検証授業では、児童が表したいことを見いだす過程で、題材の目標に対するイメージや材料について感じたこと等を段階的に振り返り、それを手掛かりにして児童は表したいことを見いだしていくことができた。また、児童の振り返りと活動の経過の画像の記録を合わせて児童に提示することで、前時までの自身の考えや活動とつながった目標を設定することができた。さらに、題材の中での自身の考えや活動の変化が分かり、達成感や満足感を得られる児童が増えた。

教員にとっても児童の思考と活動の経過が記録として蓄積されていくため、どのような指導がどのような児童の活動に結び付いたのかを把握しやすくなった。

検証授業を通して、図画工作が「できる」児童の育成のために設定した研究の視点の三項目は互いに関連しており、それを指導計画の中にタイミングよく位置付けて実践することが大切であると実感した。それにより、児童の活動の観察からだけでは捉えきれない考えを見いだすことができ、教員が児童の考えや活動を価値付ける機会が増えた。

また、児童自身は、自分の頭の中で思っていることを、文字にして表したり、音声にして友達に伝えたりすることで、自分の考えていることを意識するようになった。そこに友達の言葉、教員の言葉等が加わることで、その考えがより明確になったり、新たな考えが生まれたりすることが分かり、そのことが図画工作が「できる」と感じる契機になっていると考えられる振り返りを書く児童が増えてきた。

2 課題

研究の視点<i> 自己決定ができる多様な状況を生み出す学習過程

- ・ 児童が造形的な創造活動に取り組む手掛かりを増やすという視点を持ち、他教科等の学習内容が活用できる題材を計画的に位置付け、児童が「できる」と実感できる機会を増やす。

研究の視点<ii> 自己の取組を認識するための「対話」

- ・ 「対話」の対象だけでなく、「対話」の内容についても整理・分類し、効果的な「対話」を学習過程に位置付けられるようにする。

研究の視点<iii> 視点を明確にした振り返り

- ・ 言葉では表現しきれない児童の思考を考慮し、活動に合わせて多様な振り返りの形態の工夫や視点の設定ができるようにする。
- ・ 日常的な振り返りを積み重ね、1年間、6年間という期間で児童の成長を捉えられるように、発達段階に合った振り返りを実践していく。

その他

- ・ タブレットPC端末等のICT機器を効果的に活用する方法を模索し、児童の活動を多面的に捉え、評価していく。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小学校・図画工作

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立お茶の水小学校	主幹教諭	力丸育夫
世田谷区立経堂小学校	主任教諭	黒澤 償
渋谷区立渋谷本町学園小学校	主任教諭	馬淵 由梨香
三鷹市立第一小学校	教 諭	◎ 崎村紅葉
小平市立小平第四小学校	主任教諭	服部 佐紀子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事 吉野 早織

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・図画工作

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社